

はじめに

本教科は、中学校及び高等学校教諭教育職員免許状(保健体育)取得を志望する学生の必修科目である。初等体育科教育法と関連づけながら、ここでは、(1)保健科の目標、内容、方法など、基本的な知識を身につける。(2)教材研究や学習指導計画、学習指導法について理解を深める。(3)評価法について理解を深める。を目標としている。受講者(32名、うち1名は科目等履修生)のほとんどが2回生であるので、具体的かつ実践的な内容を組み立てている。

その構成は、前半は子ども理解、教科書研究、後半は6回にわたる保健模擬授業が中心であり、そこでは教授法の実際など学生の活動を多くして展開した。本報では、授業の総括で提出されたレポートを中心に報告することにしたい。

1 保健の授業づくり

① 保健体育科教育法Ⅱの授業を受けて、さまざまなことを体験し、考え、工夫し、学ぶことができた。この授業で印象に残っていることは、大きく分けて2つある。

まず1つ目は、教科書研究である。そこでは6つのグループに分かれて、教科書研究一年代別の教科書構成の比較、内容の比較、学習指導要領との関連性などについて調べ、発表しあった。私が教師になった時には、教科書と学習指導要領としっかり向き合っ、指導したいと思った。

2つ目は、模擬授業である。教科書研究を行った後、同じ分野、同じグループで、そのまま模擬授業を行った。実際に前に出て

先生役をするのは1人であったが、グループ全員で模擬授業を考え、準備することができ、とてもいい経験をすることができた。また、30分の授業にこんなにもたくさんの時間がかかることも勉強になった。

体育教師というと、どうしても体育のイメージが強いが、体育教師を目指すのであれば、保健を教えることができなければならない。その点、今回の保健体育科教育法Ⅱはとても意味のあるものであった。私はいまのところ、3回生の教育実習では附属中学校に行こうと思っているので、この授業で学んだことを活かして実習を行いたいと思っている。(奈緒美)

②この授業のキーワードとして、まず「子どもの現実からの出発」がある。保健の授業を組み立てていく上で、実際の子どもの置かれている状況、家庭環境であったり友だち関係のある程度把握しなければならない。授業の主体は生徒であるからその現状からどのような保健の授業が必要であるのかを考えなければならないということを強く感じた。次に「何のために、何を、どう伝えるか」である。健康認識を育てるということは、将来にわたってとても重要なことである。自分の身体を鍛錬し、健康を保持する態度や方法を習得させることは、最も大切なことの一つである。「働きかけによって子どもは変わる」ということで、この授業では毎回最後に感想を書いていたが、このことが自分自身の授業の振り返りの機会としてとても役立っていたと感じる。授業で何を学んでいたのか、何が心に

響いたのかを文字として形にして残すことは自分と会話する機会でもあり、ありのままの自分を認めるよい機会であった。(達也)

- ③ 私は保健の授業は、主にいのちについて教える授業だと思っている。子どもたちにいのちの大切さを教えて、自分自身で命を守る術を教えることが大切だと考える。私はグループで熱中症について調べて、模擬授業を行った。熱中症はスポーツをするものには必ずついて回ることであり、私自身熱中症になったこともあるし、同級生が亡くなったこともある。だからこそ、私は知識を持っているが、皆が持っているとは限らない。どのように子どもたちに教えて惹きつけさせて、理解させるかができなければならない。

今回授業を通して、私自身がいのちの大切さを学んだ。私が住んでいる愛媛も南海大地震という大きな災害が近々起こることが予想されている。そのためにも、これから教師になる私たちは多くのことを学び、教えていかなければならない。(夏子)

- ④ これから改善していく点

今回の模擬授業で、教科書中心の授業を展開する班がありましたが、教師の体験を話したり、視聴覚教材を用いることも大切ですが、時間が長すぎると生徒が授業への集中が切れてしまうと思うので注意することが必要であると学びました。先ほど教師の体験を話すとありましたが、そのためには教師が知識を増やすことが必要だと感じました。教師の知識を生徒にそのまま押し付けるというわけではありませんが、生徒のさまざまな情報を得て、それを取捨選択することで自己の問題解決能力が養われると感じました。板書については、各授業者とも掲示物を利用しており、分かりやすかったのですが、板書全体を見直してみると、この授業で何を学んだのかはつきり整理できない板書もありました。教師が黒板に書く

こと自体少ない授業もありました。黒板に書く量が多いのがいい授業というわけではありませんが、視覚的に見てとりやすいものにする必要があると感じました。

最後に、今回の授業を通して学んだことは、今後教育実習・教師になった後の教材研究の方法においてとても重視しなければならない点だと思います。今回の学びをもとに、さらなる授業内容構成に磨きをかけて生きたいと思います。(ゆう子)

- ⑤ これでもう先生の授業を受けることができないのは非常に残念である。ことば一つひとつの重さ、必死に伝えようとする時の迫力、自然に生徒をひきつけてしまう魅力、まだまだ学びたいことだらけである。私は、「自分で見て聴いて考える」ということを大切にしているのだが、「教員になって徐々に」では遅いので、大学にいるうちに自分の第6感までフルに回転して、自分で見て、聴いて、そして自分でよく考えて学んでいきたい。保健とは関係ないが、同時に自分で考えることの大切さ、聴くことの大切さ、そして自分で考えることの大切さを伝えたい。(純)

おわりに

この授業では、講義、グループによる教科書研究、そして領域別の模擬授業と、学生の活動を重視しつつ教育実践力の涵養をめざして進めてきた。そこで問われたのは、教師自身の研究心、同僚性であった。

この授業は、体育科教育法との協働はもちろん、附属中学校など、現場教師との連携を深めていきたいと切に願うものである。

最後に、1974年本学部にて赴任以来、教育学部の教職員の皆様には本当にお世話になりました。厚くお礼を申し上げます。